

五歳児の記録⑮



二学期

磯部 景子

先生は保育室の入口の近くで子どものいすにすわって、実習生や子どもたちをみている。

I 実習生をかこんで女兒五名がハンドバッグをつくっている。机の上にはタイのかごがおいてある。

I 実習生は紙に模様をかいて、それを松かさの下にむすびつけて、てるてるぼうずをつくっている。てるてるぼうずが十ばかり万国旗をつないだひもにぶらさげである。(十五日は子ども動物園に行くことになっている)

ある机の上ではビニールの上にぎくろがおいてある。

①がひとりでままごとコーナーで遊んでいる。

I 実習生はままごとコーナーに行つて①に、

I 実習生「お片づけして下さい。みんなにもいって下さい」という。

(①は今日は当番である)

①はあちこちの子どもたちに、

①「お片づけよ」といって、また、ままごとコーナーに来て、ひとり片づけはじめ。

男児が床上積木をエプロンに入れながら、少しずつ片づけはじめ

る。
②がひとりで本を読んでいる。

実習日

十月十四日 水曜日 雨

十一時

廊下でEとAがまりなげをしている。

堀合先生のまわりに子どもたちが七名集まっている。

④・⑧・⑩・⑪はまだハンドバッグをつくりつつづけている。

I 実習生と実習生がだまって、もくもくと、組み板、保育ブロックを片づけている。

テレビがついているが、みている子はいない。

十一時七分

ままごとコーナーで、①・②・③が片づけている。みんなだまって、もくもくと片づけている。

I 実習生がハンドバッグをつくっている机のところに来て、

I 実習生「④ちゃん、お片づけしましょうね」という。

④はうなずくが、まだマジックインクでかきつつづける。

十一時十分

B・D・M・⑦がてるてるぼうずの下に集まって、てるてるぼうずをみながらはなしている。

堀合先生がテレビのスイッチをきる。

ハンドバッグをつくっている子どもたちはまだつくりつつづけている。

I 実習生は④に、

I 実習生「片づけましょうね」といいながら机の上の色鉛筆を片

づけはじめ。

I 実習生は⑩のつくっているようすをみて、⑩にセロテープを切ってあげる。

③と①が遊戯室から帰って来てままごとコーナーに来る。

①がぶつぶついっているのをきく。

③と①は①がいつていることをしばらくきいていたが、

①「何をぶつ、ぶつ、いつているの？」という。

①「てつだってあげるから」といって、③と①も片づけはじめる。

①がなぜぶつぶついつているのか、まわりの子どもたちはわからない。

①がわりにはっきりした声で、

①「⑤ちゃんも遊んでいたのに片づけにこない」という。

③が①のいつていることをきいて、⑤をよんでくる。

③「⑤ちゃんを呼んできたわよ」

①「呼んでくれなくてもいいの」という。

⑤は楽しそうにせつせとまわりを片づけて片づけおわると、組み板のところに行き、組み板を片づけはじめ。

⑤は①がおこっていることに何の関心も示さない。

①はままごとコーナーをはきおわる。

①はハンドバッグをつくっている机のところに行き、まわりをはく。じみをとる。じみをすててくる。

①は②に、

①「ちりとりかけて」という。

②「いや」という。

③はちりとりが必要になって、①のところに来る。

④は①からちりとりをうけとって、ほうきではいている子どものところに持っていく。

⑤が①のところに来て、

⑥「①ちゃん、おとうばん」といってリボンをわたす。

⑦はそのあと男児のおとうばんの⑧のところに行き、リボンをつけてあげる。

⑨はリボンをつけて、保育室内をあちこちと歩いている。

Hが歯がいたいといって顔をしかめている。

先生「気もちがよくなるから、うがいをしていらっしゃい」という。

Fがとても汗を出しているのを見て、

先生「汗をふいていらっしゃい」という。

⑩が堀合先生のところに行つて、

⑪「せんせいは、菌いしゃさんに、赤ちゃんやさんに、えんぴつけずりやさんね」といってわらう。

十一時二十分

N実習生が幻燈機を持って保育室に入ってくる。

「何をするの」と子どもたちが集まってくる。

I実習生と、N実習生が幻燈の準備をはじめると、

「幻燈だ、幻燈だ」といって、子どもたちは幻燈機のみわりにいすを持って来てすわる。

堀合先生が、みえにくい位置にすわっている子どもたちを移動させる。

幻燈機のランプがつくと、子どもたちは手をかざして、きつねなどのかげをつくる。

⑫は影をつくっている子どもたちに、

⑬「いやだな、いやだな」という。

⑭は幻燈の準備をしている実習生のところに行きこれからはじまる幻燈の題をみつける。

⑮「あひるのプーちゃんよ」と皆にいう。

実習生ふたりは、もくもくと準備する。

すでに降園の時間になっているので堀合先生は時間を気にして、何回か時計をみる。

実習生は準備をおわる。

幻燈機のランプをつける。光が天井にとどく。

子どもたちは歓声をあげる。

十一時三十分

実習生が幻燈機の焦点を合わせる。

題がスクリーンにうつる。

子どもたち「あひるのプーちゃん！」という。

子どもたちはしずかにみている。

幻燈がおわって、子どもたちは手をたたく。

十一時四十分

堀合先生は幻燈がおわると、すぐに、

先生「いすはそのままいいから、おおいそぎでおかえりの仕度を
していらっしやい。レインコートもちゃんときていらっしや
い」という。

子どもたちは洋服かけのところに、帰り仕度をしている。

先生「明日は遠足なので、あさ、ごはんをちゃんとたべていらっし
やい」という。

その他、遠足に関する注意がちょっとあって、先生と子どもはい
そいで玄関に行く。

子どもたち「大いそぎ、大いそぎ」といって先生のあとを走って
いく。

十月十五日 木曜日

子ども動物園に行く。

十月十六日 金曜日 晴

インフルエンザの予防注射をする。

女兒が朝から組み板、床上積木で活発に遊ぶ。家からおろぎを
持ってくる。

男児は、朝、しばらくの間、自由画帳に絵をかいいたりうつつし絵を

していたが、その後全員庭に出て遊ぶ。砂場のグループと小石を集
めるグループに分かれている。

女兒が朝から組み板、保育ブロック、床上積木で遊んでいる。

多くの場合、朝のうちは男児が組み板、床上積木で遊んでい
るが、今朝はめずらしく女兒が、これらで活発に遊んでいる。

ひとつのグループは床上積木で応接間をつくり、それから犬小屋
をつくる。組み板で二階家をつくる。

もうひとつのグループは組み板で乳母車や食堂車をつくる。ま
まごコーナーを家にして保育室中をつかっままご遊びをする。

八時三十分

先生は子どもたちとはなしながら保育室のそうじをしている。

④が手の中にはいりそうな小さな万国旗を持って⑤とはなしに
いる。

先生が⑥の小さな万国旗をみて、
先生「あら、かわいい」という。

八時五十分

④と⑤は床上積木を二箱運んでくる。

⑥「二階をつくろう」

④「うん」といってふたりは床上積木を二箱とも床の上にざっ
うつつ。積木を床の上にしきつめて、応接間にする。

ふたりははなしながら、つくりつづける。⑥はぬいぐるみの犬を
持って来て、犬小屋をつくる。

㊦は㊧や㊨から少しはなれたところでつり竿をつくっている。
N・Uがうつし絵をしている。

㊩が本をよんでいる。

Bが家からおろぎを持って来る。

先生「あら、ひげがはえている」などといって、こおろぎをみる。

子どもたちがまわりに集まってくる。

こおろぎを箱に入れる。

㊭「せんせい、子どものうちにいってもいい？」

先生「あそこはつめたいから少し日なたで遊んだ方がいいわ」という。

Mはままごとコーナーで遊びはじめる。

㊮と㊯が組み板のところで遊びはじめる。

㊰は㊱に、

㊲「うさちゃんのくるまつくって」という。

先生は遊具のはいつているかごを移動して㊭と㊮が遊んでいる場所を広くする。

九時五分

先生は母親から連絡をうけている。

㊳は組み板がはずれないので先生のところを持っていく。

先生は母親とはなしながらはずそうとしている。

㊴はそばでみているがなかなかはずれないので木づちを先生のと

ころに持って行く。

I、A、H、Sがはなしながら、新幹線や飛行機の絵をかいている。

庭ではE、B、Uがつり輪をしている。

つり輪二本をつかってそれぞれに足をかけて、手をはなしてぶらさがる。

一本のつり輪にぶらさがっていきおいをつけて、遠くにとぶ。

一本のつり輪によじのぼるなどをしている。

九時十五分

先生は母親とはなしおわる。

先生は女兒が組み板などで遊んでいるのをみて、

先生「女の方、いっしょでとてもおもしろいわね」という。

まわりを広くしながら、

先生「大きいブロックもつかったらどうかしら」という。

先生は花の水を入れかえる。

㊵や㊶は今までは床上積木で犬小屋をつくっていたが、こんどはカラーブロックで犬小屋をつくりはじめた。

㊷と㊸は組み板でつくった大きい車と小さい車をつなぐ。

㊹が庭から入って来て、

㊺「なに、つくっているの？」とたずねる。

九時二十分

先生は庭に出て外の子どもと話している。

先生「よかったわね。いっしょうけんめい考えて」

絵をかいていた男児はみんな庭に出る。

保育室は女兒だけになる。

⑧は正方形の組み板四枚と円型の組み板二枚と棒で小さな車をつくる。

⑨「もう、これは、できましたから」といって⑤にわたす。

⑤はうれしそうにうけとる。

⑤はままごととコーナーから座ぶとんを運んできて、車に座ぶとんを押しこんで、ぬいぐるみのうさぎをのせる。

⑤はうさぎをのせた車をおして、ままごととコーナーに行つてごちそうを車にのせる。

先生は昨日子ども動物園に行くとき持っていた葉を整理している。

先生は⑤の車を見て、

先生「あら、ごちそうもあるの?」

⑤「おなががすいたらあげるの」という。

⑧が庭から入つてきて、みんなが遊んでいるようすを興味を持ってみている。

先生「⑧ちゃんもいっしょにしましうね」という。

先生はきゆうぴいを持って来て、

先生「きゆうぴいさんも入れて下さい」という。

⑤は⑧に、

⑤「ふたりでつくつたのよね」と得意そうにいう。

⑧は大きい車と小さい車をつないだのをおしてくる。小さい車にぬいぐるみの犬をのせる。

Tが庭から入ってくる。⑧の車を見て、

「うしろに赤ちゃんのついている」といって笑つてみている。

⑧「⑤ちゃん、おうちどこにする」という。

⑤はままごととコーナーをさして、

⑤「あそこでしょう?」という。

⑤は車を押して、ままごととコーナーに行く。

先生は⑧が車を押しているのを見て、

先生「今日はひっくり返らなくて、よかったわね」という。

先日⑧が車をつくつた時、大きい車と小さい車をひもでないでいたので大きい車を押して歩いてみると小さい方の車がひっくり返つては困っていた。今日は大きい車と小さい車が組み板でつながっているので小さい車がたおれない。

庭では男児が砂場のグループと、小石をあつめるグループに分かれて遊んでいる。

九時四十五分

インフルエンザの予防注射をしに保健室に行く。

十月十七日 土曜日 晴

身長・体重測定をする。

遊戯室で「子ども動物園」をおもい出しながら自由表現のリズムをする。

九時三十分

保育室では男児三名が積木とブロックで飛行場遊びをしている。

庭では男児、七、八名がハンカチおとしをしている。男児、三、四名が砂場でおだんごをつくっている。

先生は保健室で女児の身長・体重測定をしている。

九時四十五分

女児は測定をおわった人から保育室に帰ってくる。帰ってきた人から遊びはじめる。

女児の遊びには次のような遊びがみられる。

本を読む。

自由画帳に描く。

天使の頭上の輪やはねをつくる。

ままごとをする。

庭に出て鉄棒をする

女児の測定がおわりに近づく。

㊦が保育室に帰ってくる。

㊦「あのね、今度、男の方、並んで下さいって」といって先生からの伝言を男児に伝える。

先生は保健室で測定をしている。

男児はさっと集まって保育の入口のところに一列に並ぶ。

㊧が保育室に帰ってくる。つづいて㊦が帰ってくる。

①「男の方、来て下さいって」と先生からの伝言を伝える。

男児は並んで保健室に行く。

間もなく、男児も測定をおわった人から保育室に帰ってくる。帰って来た人から遊びはじめる。

全員の測定をおわり、先生も保育室に帰ってくる。

十時五分

先生は保育室の子どもたちのようすをみわたし、それから庭に出る。

庭では男児五名がハンカチおとしのつづきをしている。

㊦「先生、ハンカチおとしに入って」

先生はハンカチおとしをしている子どもたちをみわたす。

先生「はい、はい、いれてちょうだいね」といってハンカチおとしに加わる。

Tが先生に手の傷をみせに来る。

NはTとはなしをしている先生のうしろにハンカチをおとし一周まわってから、

N 「どん」といって先生の背中をたたく。

先生「あっ、先生のうしろだったのごめんさい。あっ、ちょっと待ってね。Tちゃんに薬をつけてあげるから」とハンカチおとしをして、TちゃんにもことわってTといっしょに保育室に行く。

先生はTの指にマーキョロをつけて、またハンカチおとしに加わる。

しばらくして、

K 「ほうたいがとれた」といってくる。先生はまた、ハンカチおとしをしている子どもにことわって、保育室に行く。

先生は水道で手を洗い、Kの手をみる。

◎が先生のところに来て、先生がKの手を手当てするのをのぞきこむ。

先生「◎ちゃん、さっき、はねつけてたの、どうしたの？」

◎ 「とっちゃったの、天使さまやってたの」

先生「そう、天使さまだったの？」

先生ははねをつけている◎をみる。

先生「あら、◎ちゃんもね、うしろむいてごらんさい」

先生は笑いながらみる。◎の頭上の輪をみて大笑いする。

◎ 「Kちゃん、どうしたの？」

先生「Kちゃんね、あやしいのよ、ひょうそうになりそうなの。少しふくれあがってきちゃったの」

しふくれあがってきちゃったの

K 「あっ、しみる」

先生「しみる？ でもおやすりだから……。ひょうそうになっちゃうと大変でしょ？」

K 「ひょうそうって、なあに？」

先生「ひょうそうってねえ、いたいの、とつてもいたいのよ、夜もねられないくらいなの、そんなのになっちゃうと大変でしょ」

K 「うん」

先生「さ、これでいいわ」

先生は◎もはねをつけているのをみる。

先生「あら、◎ちゃんも天使さまなの？」

はねは輪ゴムをつないで胴にむすびつけてある。先生は◎のゴムがきつそうなのをみて、

先生「あ、◎ちゃん、ちょっと待って、はねが少しきついんじゃないかしら、ゴムが」

先生は◎のはねをおさえている胴のゴムをほどく。

先生「やってあげるわ、今」といって、輪ゴムをいくつかつないでちょうどよい長さに調節する。

十時四十五分

先生はそばにいた◎に遊戯室に行くからお片づけをするようにいう。

◎ 「おかたづけー、おかたづけー、◎ちゃんお片づけよ」とふしをつけていう。

◎ 「せんせい、お片づけー」

先生「そう、ちょっと、お片づけしましょう」

◎ 「やーまのくーみー、おかたづけー」と節をつけていう。

先生も子どもたちも片づけはじめ。

先生は卒先して片づけながら、

先生「㊦ちゃんも、そこ、お手つだいしょうね」という。

先生は箱積木の長いものをきちんと並べる。

先生「このあと、やってちょうだい」

子どもたちは先生が積んだ箱積木の上に小型の箱積木をきちんと並べる。

先生はなわとびのなわを整理する。

先生は天使のはねをつくっていた机のところにいき、㊧たちに、

先生「㊧ちゃん、ここ、おかたづけお願いしますよ」という。

先生は卒先して片づけながらそれぞれの子どもたちに片づけるように働きかける。

I 「せんせい、ちりとり」

先生「あ、ちりとりね、ごめんなさい。せんせい、あそこにおいてきちゃったわ」という。

机の上がきれいに片づいたのを見て、

先生「まあ、㊧ちゃん、きれいにお片づけして下さったわね」という。

保育室内で子どもたちがせつせと片づけはじめたころ、先生は庭に出て、砂場を片づけはじめ。

十一時

大体片づけおわる。

先生「じゃお手洗に行きたい方はお手洗に行って並んでちょう

だい」

子どもたちはドヤドヤと保育室を出てお手洗に行く。

F 「せんせい、二列？ 一列？」

先生「そう、二列に並びましょう」

子どもたちは並びおわる。

先生「じゃ、出発してちょうだい、走らないでね」

子どもたちは歩いて遊戯室に行く。

先生は楽譜を持って子どもたちのあとから歩いていく。子どもたちは前から順番にいすにすわっていく。

先生は遊戯室の窓をあける。

先生は行進曲をひきはじめる。

先生「あのね、ぶつからないように好きな方に歩いてね」

子どもたちは歩き出す。

先生「ピアノによく合わせてね」

子どもたちはピアノに合わせて歩く。

先生「さあ、じゃあ、このあいだみたいだね、ほら、子ども動物園に行つたでしょう。思い出してみましょうね。じゃ、仕度して下さい」といってピアノをひく。

先生「さあ、仕度ができたから、みんな幼稚園に行きましょう」

(行進曲)

「じゃあ、もうバスが待ってますからバスにのりましょう」

(自動車の曲)

ピアノに合わせないでむちゃくちゃに走る子どももいる。

先生「あのね、㊦ちゃんのバス、このあいだのバスみたいにとつても上手に走れたわよ。あんまりスピードも出さないし、信号のところはちゃんととまったし。あんまり早すぎて、このあいだのバスみたいじゃないのもあったわよ」

(再び自動車の曲をひく)

先生「さあ、それじゃ、はじめにどこに行きましようか」

子どもたち「子ども動物園」

先生「そうね、じゃ、バスをおりることにして、子ども動物園に行きましよう」

(行進曲をひく)

先生「じゃ、はじめに何がいたかしら」

子どもたち「やぎ」

(やぎの曲)

先生「そうね、やぎさんね。じゃあ、やぎさんになりましよう」

子どもたち「メエ、メエ」といながら自由表現をする。

先生はピアノをひきながら、子どもたちがしている動作をとりあげる。

先生「ごちそうを食べていたり、歩いていたり、まわりを走ったり、いろいろなやぎさんがいたわね。いろいろなやぎさんになりましよう」といって再びやぎの曲をひく。

「じゃあ、今度はあひるさんね」

(あひるの曲)

「今度はぶたさんのところに行きましよう」

(ぶたの曲)

「ぶたさん、かわいいぶたさんだったわね。ちよこ、ちよこ、走ったでしょ。ぶたさんたち、走って下さい」

(再び、ぶたの曲)

「ほかに、何がいたかしら」

子ども「うさぎ」

「あ、そうね、うさぎさんもいたわね」

(うさぎの曲)

先生「それから、みんな、お馬さんにのりましよう」

(曲)

「ラバさんにのった方もあったわね」

(曲)

「じゃあ、お馬さんにのったり、いろんなものをみたりしてつかれたから、少しそこで、おやすみましよう」

(おやすみの曲)

「お馬さんにのった方もラバさんにのった方もおもしろかったわね」

(おやすみの曲、おわる)

「さあ、今度は、ああ、一番おしまいに見せていただいたものの、何でしたっけ」

子ども「へび」

先生「そうね」

(曲)

子ども「それから、ライオンなんかもみた」

先生「そうね、それじゃ、動物園の方に歩いて行きましよう」

(行進曲)

子ども「さる」

(曲)

先生「今ね①ちゃんのおさるさん、あんまりよく似てて、ほんものとまちがえそうになっちゃった」といって笑う。

先生「じゃあ、今度は、ほら、キリンさんも見たじゃない」

(曲)

先生「今度は……」

子ども「ライオン」

先生「あ、そうね、ライオンもいたわね」

(曲)

Eがふぎける

先生「あら、Eちゃん、Eちゃんの見たライオンさん、そんなことした？ 先生の見たライオンさんは、木の下にじっとしてねてたわよ。あ、そうね、(Mをみて)そういうふうになてたわね」

先生「さあそれじゃ、モノレールにのって帰りましょう」

(曲)

「はやかったから、すぐついちゃったわね。じゃ、いすに、こしかけましょう」

十一時二十五分

「今日はね、土曜日でおべんどうがない日だから、じゃあね、お部屋まで……」

子ども「スキップ？」

先生「今日はね、片足とびにしましょう。できてる方はお部屋までね。お部屋に帰ったらお帰りの仕度をしてちょうだいね」
子どもたちは先生のピアノに合わせて片足とびで遊戯室を出ていく。

十一時三十分

先生も保育室にもどる。

先生「今日は、てぬぐいを持ってってね。あのね、何か悪いかげがはやってますから、きのう、インフルエンザの注射をしたから、悪いかげにはかからないけれど、軽いかげはひくかもしれないから、幼稚園から帰った時や、よそにでかけたあとは、ちゃんとうがいをしませうね。そうすれば、たいていの病気はにげてっちゃうのよ。じゃ、背中をのばして、さようなら」

(つづく)

幼児の教育 第六十七巻 第十号

十月号 © 定価八〇円

昭和四十三年九月二十五日 印刷
昭和四十三年十月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いたします